

評価委員会総合評価

研究課題名：台風の進路予報・強度解析の精度向上に資する研究

評価委員

委員長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 10 月 21 日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 ☒ 可 ☐ 否
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

台風の進路や強度に関する情報の提供は、気象庁の最重要業務の一つであり、本研究の取り組みは、将来の台風予報の中核を成すものである。また、学術的にも多くの未解明の過程を内包する台風という複雑現象への挑戦であり、その意義も大きい。

本研究の成果が現業業務に反映されることより、台風の予測精度の向上が期待されるほか、理論的、観測的な予測精度の限界を明確にし、理想的な予報システムによる予測可能性の提示は、将来の台風予報の在り方を考察するうえで極めて有効な知見を与える。

さらに、日本のみならず亜熱帯域での熱帯低気圧も対象として国際貢献を図ること、一層有効な研究となり得る。また、実施事項の一つに挙げられている新たな物理過程の導入は、他の数値モデルへの適用や共通化に必須であることから、本研究の有効性は大きい。

計画では、気象庁本庁をはじめとする関係機関との綿密な連携の下、他の課題と共通のモデル改善の研究を推進することとしており、研究成果が効率的に現業業務に反映されるよう考慮されている。

なお、全球データ同化システムは、全球予報モデルの性能に強く依存していること、全球非静力学モデルの研究は発展途上であること、全球モデルの解像度は台風の強度予測には必ずしも十分ではないことなどを考慮し、領域モデルの研究者との連携を密にモデル開発とデータ同化の双方の推進により、研究開発の効率性の向上が見込まれる。先行研究で得られた最適観測法の知見の活用や残された課題への対処を検討し、課題としての達成目標を明確化することにより、更に効率の良い研究計画となることを期待する。